

第3回和光北インター周辺地域クロスリンク交流会

報告書

【開催概要】

- ・日 時：令和8年8月17日（月） 15時30分～17時10分
- ・場 所：中央公民館 会議室1
- ・参加者：12企業・団体:18名/和光市6名
- ・目 的：和光北インター周辺地域の未来志向のまちづくりに向けた『わこきた「イノベーション×ウェルネス」プロジェクト』の取り組みを共有し、地域活性化に向けた協働のきっかけづくりとすること。これまでの第1回・第2回交流会の成果を踏まえ、新たなメンバーと共に参加者間のさらなる交流の深化を図る。

【進 行】

- 1 開会のあいさつ（合同会社あやなり本舗）
- 2 わこきた「イノベーション×ウェルネス」プロジェクトについて（和光市）
- 3 花火祭りの取組について（合同会社あやなり本舗）
- 4 企業発表
 - (1) 株式会社地域デザインラボさいたま「いっしょに成長」
 - (2) 株式会社ベスプラ「地域共生ヘルスケア」
 - (3) 株式会社サポート「すべては地権者のために」
- 5 意見交換会
- 6 閉会のあいさつ（合同会社あやなり本舗）

【企業発表および質問応答】

- (1) 株式会社地域デザインラボさいたま 地域共創ソリューション部 村瀬 光汰氏
「いっしょに成長」

【発表内容】

●会社概要

- ・埼玉りそな銀行の100%出資子会社
- ・地域の魅力を高めるまちづくり事業や民間ノウハウを活かした公共事業の推進（PPP/PFI）
- ・新しいビジネスや産業を生み出すための支援（「りそなコエドテラス」の運営）
- ・観光振興、河川の活用コンサルティング、空き家対策支援など

●取組紹介

- ・志木市：いろは親水公園利活用基本計画策定支援、中心市街地活性化計画策定支援、まちづくり会社運営支援。
- ・毛呂山町：若者向けの起業支援、ビジネスコンテストの開催

●今後の展望

- ・まちづくりキーパーソンの組織化
- ・地域が主役のまちづくり事業実装
- ・自主性をもち自走可能な体制づくり

【質疑応答】

Q：支援する自治体の選出方法と対象について教えてほしい。

A：埼玉県内が対象。企業からの相談を受けたり、自治体や企業へアイデアを持ち込んだりすることがきっかけになっている。

Q：ビジネスコンテストで起業した後のケアについて教えてほしい。

A：起業後のケアは特に重要視している。補助金や経営支援等の面で伴走支援を行っている。

Q：まちづくり事業の財源の確保はどう行っているのか。

A：財源の確保に関しては大きな課題である。設立したまちづくり会社の利益等が主な財源となるため、地域の魅力を収益ポイント化することが重要である。

(2) 株式会社ベスプラ 代表取締役 遠山 陽介氏

「地域共生ヘルスケア ウェルネスプラットフォーム」

【発表内容】

●会社概要

- ・ヘルスケア事業（脳にいいアプリの開発）
- ・システム受託事業

●取組紹介

- ・「脳に良いアプリ」の大規模実証、第1回日本デジタル医学会年次学術大会にて優秀演題賞を受賞
- ・中高齢者向け健康アプリ自治体導入数シェアトップ10
- ・八王子市と連携し、健康ポイントアプリ「てくポ」を実装。中高齢者の10人に1人が使用し、医療費、介護費の抑制、重症化予防に寄与している。

●今後の展望

- ・健康アプリの活用を通じた個人の「健康づくり」を皮切りに、住民の活動促進や協働・連携を活発化
- ・人々のつながりから地域の「賑わい」を生み出し、「健康」というテーマから始まる、笑顔あふれる魅力的な街づくりを推進

【質疑応答】

Q：ポイントの還元率について、どのような設計をしているのか。

A：地域ごとの課題や用途に応じて柔軟に設定している。

Q：アプリを使用されている方の年齢層を教えてください。

A：一般の方は50代女性が多く、自治体関連では70代の方が多い。

Q：利用者を増やすために取り組んでいることを教えてください。

A：シルバー人材センターと連携し、窓口でスマートフォンが苦手な方にもわかりやすくアプリの使い方を説明できる体制をとっている。

(3) 株式会社サポート コンサルティング事業部 本橋 祐一氏

「全ては地権者のために」

【発表内容】

●会社概要・事業概要

- ・都市計画、まちづくりに関する総合コンサルティング事業
- ・市街地再開発事業
- ・土地区画整理事業推進支援

●取組紹介

- ・和光北インター地区（物流・産業系区画整理事業における推進支援）
- ・川向町南耕地地区（物流・産業系区画整理事業における推進支援）

●今後の展望

- ・地権者の意向を最優先にした、持続可能な地区の基盤整備とまちづくりの推進

【意見交換会】

意見交換会では、3～4名のグループに分かれてテーマごとに話し合い、それぞれのグループで出た意見を発表し合いました。

①和光市の活性化に向けた人材発掘、育成について

【主な意見】

- ・地域のファミリー層や子どもたちを対象とした農業体験などを通じて、地域への愛着や関心を育むことが重要である。
- ・地域の工場や施設の見学会を定期開催することで、子どもや住民の地域産業に対する興味・関心を高めることができる。

②ヘルスケア、ウェルネス、ウェルビーイングで和光市を活性化させるには

【主な意見】

- ・健康づくりなどの「目的」を前面に出すよりも、まずは参加する「きっかけ」をつくることが重要である。
- ・東京ディズニーランドでは、「歩くこと」が目的ではないものの、楽しい体験をするために自然と歩いている。これと同様に、「楽しい・面白い」を入り口に、結果として健康やウェルネスにつながるような仕掛けが理想的である。

③スポーツで和光市を活性化させるには

【主な意見】

- ・スポーツによる活性化には、幅広い世代が関わることが不可欠である。
- ・YOU.FOは始めたその日のうちに老若男女が一緒に楽しめるため、良いきっかけになり得る。また、市内だけでなく、県外や海外ともつながりを持つことができる種目である。（YOU.FOとは専用の「スティック」を使って、軽量の「リング」を投げ合ってパスを繋ぎ、相手陣地のエリア内でキャッチして得点を競う新しいチームスポーツです）

④和光市の活性化に向けて、私こんなことができます

【主な意見】

- ・「わこスポ」などを活用した運動会を定期開催し、地域住民の交流を生み出す。
- ・こうしたイベントの開催にあたって、駅からの移動動線がしっかりと確立されることが理想である。

⑤100万円あったら和光市活性化のために、こんなことをやります。

【主な意見】

- ・「わこスポ」のPR。せっかく立派な施設があるにもかかわらず知らない人が多いため、スポーツ大会等を定期開催して施設をもっと活用すべきだ。
- ・地域の農産物ロスをなくすための取り組みとして、「子ども農園」などの食育・環境を絡めた事業の展開等。

【進 展】

・各社の事業理解と、地域活性化に向けた活発な意見交換の実現

3つの企業による発表を通じて、各社の事業や活動内容に対する理解が深く共有された。それを踏まえ、和光北インター周辺地域の活性化や将来像を見据えた熱い意見交換が、参加者間で活発に行われた。

・ニュースポーツやヘルスケアを通じた「ウェルネス」の具体化

YOU.FO や脳に良いアプリといった具体的なコンテンツや技術に触れたことで、「ウェルネス」を切り口にした地域の魅力づくりやイベント企画の解像度が大きく上がった。

・エリアの未来像を共有する協働のきっかけ

異なる背景を持つ参加者同士の対話を通じてそれぞれの強みやリソースが結びつき、「和光北インター周辺地域をどう盛り上げていくか」という未来志向のビジョンと、新たな協働に向けた確かな手ごたえが得られた。

【交流会状況】



以上

第3回和光北インター周辺地域クロスリンク交流会

令和8年8月17日

	所属	人数	備考
1	合同会社 あやなり本舗	1	司会
2	株式会社 光英科学研究所	1	
3	一般社団法人 日本YOU.FO協会	1	
4	戸田建設 株式会社	1	
5	大和ハウス工業 株式会社	2	
6	株式会社 サポート	2	企業発表
7	株式会社 クリーン工房	1	
8	株式会社 ティップネス	1	
9	株式会社 ベスプラ	1	企業発表
10	エンジョイ農業クラブ	2	
11	株式会社 地域デザインラボさいたま	3	企業発表
12	合同会社 OBN	2	
13	和光市	6	
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
計		24	